

# 一般質問

(質問者の文責により、質問と答弁の要旨を掲載)



民 政 会 諸 星 光

## 市民と共に協働でまちづくりを

一 より信頼される市役所の実現に向けて

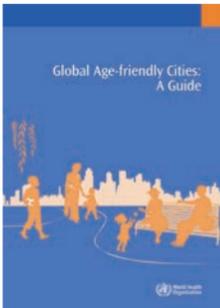
問 平成28年に職員の不適切な事務処理の発覚が続き、その後も法令違反や不注意による事務処理ミスなどが、後を絶たない現状である。再発防止策はどうか。

答 基本を改めて確認し、各階層で身につける内容や職務上の専門知識を学ぶ研修などを充実させ、研修を専任する職を設置する。

二 高齢者にやさしいまちづくり(エイジフレンドリーシティ)について

問 高齢者にやさしいまちがあらゆる世代にやさしいまちになるといった趣旨で、WHO(世界保健機構)がプロジェクトを提唱したが、本市の参加はどうか。

答 孤独死や救急の対策など高齢者に関する課題を確認し、今後、高齢者へのさらなる支援を検討するとともに、平成30年度中に参加



あらゆる世代にやさしいまちづくりを(写真はWHOのエイジフレンドリーシティパンフレット)

を表明する。

三 地域と一体となった特色ある学校づくり(コミュニティ・スクール)について

問 学校と地域住民が顔の見える関係を築き、災害時に協力し合える体制をとるため、コミュニティ・スクール実践校を拡大する必要がありと考えるがどうか。

答 先進校の課題や教職員の意見などを反映した上で、学校運営協議会の設置校を拡大する。今後も子どもたちの成長を支えていく学校づくりに努めていく。

## 総力を挙げ、秦野サービスエリア(仮称)スマートインターチェンジを活かした周辺土地利用構想「実現を

自 民 党 新 政 風 間 正 子

一 新東名高速道路と地域活性化について

問 周辺土地利用構想の実現には、専門部署を設置し、本市一丸となって取り組む推進体制が必要と考えるがどうか。

答 広範かつ多岐にわたるプロジェクトを専門部署だけで集約するのは困難であり、政策部を中心とした関連部署の連携体制を構築している。今後もトップが率先し、総力を挙げて取り組む。

問 地元の協力により東地区で外

国人観光客誘致の視察を受け入れているが、スロウライフ体験事業の取り組みはどのようか。

答 県が中心となり実施したセミナーの一環で、外国人留学生が蓑毛地区でそば打ちなどを体験し、観光地化され過ぎていない里山風景などに對する高い評価を得た。今後個人旅行の多い外国人観光客をターゲットに、受け入れ態勢を整備を進める。

要望 外国人観光客誘致に向け、表丹沢野外活動センターのいろいろ棟の活用も検討してほしい。



無 所 属 古 木 勝 久

## 秦野赤十字病院への計画的な財政支援を

一 秦野赤十字病院について

問 現在の秦野赤十字病院の経営状況はどのようか。

答 平成28年度は約7億円の経営赤字である。現在、日本赤十字社本社から重点支援病院に指定され、経営改善計画を策定し、経営健全化に取り組んでいる。

問 本市は秦野赤十字病院を市民病院的な病院として位置付けてきた。計画的な財政支援をしていくべきと考えるがどうか。

答 財政支援については、病院経営の収支状況などを見極め、本市としての対応を検討していきたい。

二 地震対策について

問 在宅の障がい者、高齢者などの避難行動要支援者を支援するための福祉避難所の受け入れ態勢はどのようか。

答 福祉避難所の受け入れ態勢には、さまざまな課題がある。防災担当部局や地域と連携し、福祉避難所の充実を図っていききたい。



周辺土地利用構想の実現を(写真は新東名高速道路工事現場)

二 ごみの減量対策について

問 平成29年度で生ごみ分別収集モデル事業が終了するが、30年度の取り組みはどのようか。

答 生ごみ分別収集に協力する世帯の生ごみ処理機購入費の補助率を上げるとともに、農地にコンポストを設置し、市民が生ごみを自己搬入し堆肥化を進める生ごみ持ち寄り農園事業を行う。

安全に通れる歩行空間の整備を(写真は市道9号線)



日 本 共 産 党 佐 藤 文 昭

## 小児医療費助成を中学3年生まで実施し、中学校完全給食を早期に実現せよ

一 子育て支援施策について

問 小児医療費助成制度の拡充に對する考えはどのようか。

答 中学3年生までの通院助成拡充については、所得制限の在り方や安易な受診を抑制するための一部負担金導入など、さまざまな要素を勘案し、検討する。

問 国は、待機児童解消に必要な受け皿を整備するとして、保育士への給付金制度を実施しているが、本市ではどのようか。

答 平成30年度から、保育士等就

緑水クラブ 横溝 泰世

一 平和施策への考え方について

問 昭和44年に「秦野市民憲章」を制定し、61年に核のない世界平和と市民の限らない平和の希求を願う「秦野市平和都市宣言」を制定した。歴代市長は、常に平和の中に市民福祉があることを前提に施政方針を提案されたが、今提案には、「平和」という文字が一字一句記載されておらず、公の長が軍国主義の中での格言を引用することはいかがなものかと考える。市長の平和観はどのようか。

答 お互いを理解し、尊重し合えるまちづくりを進め、市民の安全・安心な生活を守ることは重要な責務であると考えている。

要望 今後は、公の長として施政方針に平和について言及すること未整備区間についての考えはどのようか。

答 現在実施している事業は、通学路の安全対策を目的に整備を行っている。東海大学前駅北口に向かう路線は、駅に向かう歩行者が多いことやバスの折り返し場が隣接する路線でもあるため、歩行者の安全対策が必要な路線であることは認識している。東海大学前駅北口のエレベーターなどの整備の検討と合わせて、連続した歩行空間として整備していきたい。

安全に通れる歩行空間の整備を(写真は市道9号線)

労促進給付金の取り組みを実施する予定である。

二 高齢者施策について

問 平成37年に団塊の世代の方がすべて75歳以上になるという2025年問題に向け、介護の取り組みはどのようか。

答 医療・介護の専門職で構成する地域ケア会議を充実させ、自立支援など個人支援を強化する。

三 教育施策について

問 平成28年度に作成したはだのっ子SOSカードの効果はどうか。

答 先生や友人に、いじめがあつたというはだのっ子SOSカードの届けはないが、いじめを抑止する効果があると考える。

問 中学校給食の完全実施に向け、今後の計画はどのようか。

答 生徒や保護者へのアンケート調査、校長会、PTAの意見交換などで実態・意向把握に努め、平成30年のできるだけ早い時期に提供方法を決定し、計画策定をする。を要望する。



子どもが安心して通える学校づくりを(写真は中学校区ごとのはだのっ子SOSカード)



施政方針で平和への言及を(写真は市役所前の平和の灯モニュメント)